



《共通事項》

◆生育状況について

1. 管内の生育状況〔開花日〕

品目	品種	令和7年	令和6年
杏	新潟大実	3/28	4/2
プルーン	くらしま		4/10
梨	南水		4/13

◆当面する重点作業について

1. 春季干ばつ対応として、晴天が7日以上続いたら20～30^{mm}のかん水を定期的に行い、初期生育を順調に進めることが重要です。また、敷きワラについては 晩霜の心配がなくなってくる5月末より梅雨前までに“樹冠下に敷きワラ”を行う。
2. 人工受粉を励行し、結実を安定させる。共同開葯所を積極的に利活用する。

◆ナシヒメコン・コンフューザーN・スカシバコン設置について

1. 設置方法は、総合情報に記載されているので、適期に設置を行う。
2. 屋際等で生育の早い園地は、越冬成虫の発生も早いので早めに設置する。
3. プルーン・すもも生産者は、ナシヒメコンの第2期設置分を、梨の生産者は、コンフューザーNを配布されても、設置時期まで密封したまま、冷暗所(5℃以下)に保管して下さい。

《プルーン・すもも》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期:4月23日(水)～4月27日(日) 散布日 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	50g	シンクイムシ類・アブラムシ類	前日
(アプロードフロアブル)	100ml	カイガラムシ類	14日
(アグレプト水和剤)	100g	黒斑病	30日

3. 散布量:10a当り=400ℓ以上
4. 留意事項

①ウメシロカイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100ml)を加用または特別散布する。

なお、手散布で枝・幹部にしっかりと薬液をかける。

- ②降雨が多い場合は、ロブラール水和剤 1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を加用散布する。
- ③すももで被害が多い、黒斑病の発生が心配される場合は、アグレプト水和剤 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100g)を加用散布する。
アグレプト水和剤に代えて、アグリマイシン100の 1,500 倍(水 100ℓ当り 66g)を使用しても良い。
- ④モスピラン顆粒水溶剤は、ミツバチ等訪花昆虫に影響があるため、周囲や時間(ハチの飛びにくい早朝散布)に注意して散布する。

◆第4回薬剤散布の実施について

1. 散布時期: 5月3日(日)～5月9日(水) 散布日 月 日

2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
㊤ダイアジノン水和剤	100g	シンクイムシ類	21日

3. 散布量: 10a 当り=400ℓ以上

4. 留意事項

- ①りんご(生理落果)やもも・ネクタリン(葉葉害)に農薬飛散しないよう十分注意する。
- ②黒斑病が心配される場合は、マイコシールド 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g)を加用散布する。

◆プルーン・すももの花肥施用について

1. 施肥時期: 4月中下旬

2. 施用資材・施用量: 有機専科 10a 当り 2袋 (ノルチツソ 1袋を施用しても良い。)

3. 留意事項: 樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。

樹勢の弱りやすいスタンレイなどは多めに施用する。

降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

《あんず》

◆摘果講習会開催について

下記により、杏の摘果講習会を開催致しますのでご参集ください。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
4月28日	月	午前 9:30	萩原久光様園(松代城跡西) 場所が不明な方は松代総合センターへ 午前9時20分までに集合	伊藤
		午前 11:00	小野益一様園(東条)	伊藤

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期: 4月26日(土)～4月30日(水)頃(落花15日後頃) 散布日 月 日

2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソージェン	200g (158mℓ)	ほう素欠乏	—
ストロビードライフフロアブル	50g	黒星病・うどんこ病	7日
㊤スカウトフロアブル	50mℓ	アブラムシ類	14日

3. 散布量: 10a 当り=400ℓ以上

4. 留意事項

①殺虫剤が入るのでミツバチ等引き上げ後に実施する。

②黒星病の防除はこの時期がもっとも重要。(加工でも病害果は荷受けできない。)

③花カスを飛ばすようなつもりで散布を行う。はかま(がく筒)が残ると、灰星病やサビ果等の要因になる。

④昨年、かいよう病の発生が見られた園は、マイコシールド 1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を加用散布する。

⑤ストロビードライフフロアブルに代えて、ミギワ20フロアブル 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50 mℓ)を使用してもよい。

◆(特) 薬剤散布について

1. 散布時期: 第4回散布10日後に必ず散布 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソ ー ゲ ン	200 g (158mℓ)	ほう素欠乏	—
ロブラール水和剤	66 g	灰星病	3日
㊟オリオン水和剤	100 g	アブラムシ類・ケムシ類	7日

3. 散布量: 10a当り=400ℓ以上
4. 留意事項
 - ①アブラムシが見られる場合は、㊟モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍(水 100ℓ 当り 25g・年 2 回以内)を特別散布する。
 - ②うどんこ病の発生が心配される場合は、パレード15フロアブル 3,000 倍(水 100ℓ 当り 33mℓ)を加用散布する。

◆ほう素欠乏と言われる果面障害果

ほう素欠乏対策として葉面散布(ソーゲン)を実施しているが、毎年のように発生する。春先に雨が少ない場合、発生は多くなる傾向。



◆うどんこ病について

落花期以降、高温乾燥が続くと発生しやすい。品種では、「平和」「信州大実」「新潟大実」に発生が多い。被害の多い場合は、着果量が多い園については、摘果にて被害果を落として対応する。不足している園は、被害の小さいものを残す。

《うめ》

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 4月19日(土)~26日(土)頃 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
㊟モスピラン顆粒水溶剤	25 g	アブラムシ類	前日
オンリーワンフロアブル	50mℓ	黒星病	前日
マイコシールド	66 g	かいよう病	21日

3. 散布量: 10a当り=500ℓ以上
4. 留意事項
 - ①マイコシールドは、収穫21日前までの使用となっているので散布日に注意する。
 - ②黒星病の伝染が始まる大事な防除時期であるので、たっぷりと丁寧に散布する。
 - ③ウメシロカイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000 倍を(水 100ℓ 当り 100mℓ・収穫 7 日前まで)を加用散布する。

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 5月3日(土)～5月10日(土)頃 散布日 月 日

2. 調合量: 水1000当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
イオウフロアブル	200ml	黒星病	前日
㊦バリアード顆粒水和剤	25g	アブラムシ類	前日

3. 散布量: 10a当り=5000以上

4. 留意事項

①バリアード顆粒水和剤はミツバチ等に影響が出るので、引き上げ後に散布を行う。

《あんず・うめ共通事項》

◆梅・杏の摘果について

1. 凍霜害の被害が心配される園では、実止まりが確認できるまで摘果作業を遅らせる。
2. 杏は満開後18日～28日頃が適期。本年は4月下旬～5月初旬頃が適当と思われる。
3. 満開後25日以降は果実が重なり、果梗も硬くなり摘果がしづらくなってくる。
4. 梅の豊後については、生理落果終了後に行う。

◆梅・杏の花肥(追肥)施用について

1. 施肥時期: 4月下旬
2. 施用資材・施用量: 有機専科10a当り2袋(ノルチツソ1袋を施用しても良い。) ※樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。

◆枝枯れの処理について

1. 花かすが落ちにくい場合、花腐れが発生しやすい。落花直後の薬剤散布徹底をする。
2. 枝に花カスが残る樹脂が出ている症状の樹では、発見次第切り取り焼却するか埋める。⇒ 切り取った枝を園地に残すと、収穫果の灰星病の発生につながる所以注意する。

《なし》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 落花直後(花が8割位散った時が目安となる。) 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
(展着剤)	10ml	—	—
㊤モスピラン顆粒水溶剤	50g	アブラムシ類	前日
オンリーワンフロアブル	50ml	黒星病・黒斑病・赤星病	前日
(トップジンM水和剤)	100g	(心腐れ病)	前日

3. 散布量: 10a 当り = 棚栽培300ℓ / 立木栽培350ℓ 以上

4. 留意事項

- ①モスピラン顆粒水溶剤はミツバチ等に影響があるので注意する。ミツバチ等がいない時期・時間(早朝)で散布を行う。
- ②この時期の西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- ③心腐れ症が心配される場合は、トップジンM水和剤(水 100ℓ 当り 100g)を加用散布してもよい。なお、トップジンM水和剤に代えて、ベンレート水和剤 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g)を加用してもよいが、同系統薬剤で、年に一方の使用しかできないので注意する。
- ④南水でナシミハバチの発生が多い場合は、アーデントフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50ml)を使用しても良い。なお、ミツバチ等にかからないよう十分注意する。
- ⑤ナシキジラミの発生がみられる場合は果樹技術員まで相談する。アブラムシの被害と酷似しているが、モスピラン顆粒水溶剤では効果が無い。

◆第4回薬剤散布の実施について

1. 散布時期: 前回散布14日後 散布日 月 日
2. 調合量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
(展着剤)	10ml	—	—
トレノックスフロアブル	200ml	黒星病・黒斑病・赤星病	30日

3. 散布量: 10a 当り = 棚栽培400ℓ / 立木栽培450ℓ 以上

4. 留意事項

- ①この時期の西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- ②今回から3回ストピットⅡ500倍(水 100ℓ に 200g)を加用散布すると、サビ果・葉焼けが軽減できる。
- ③黒星病の発生が心配される場合は、トレノックスフロアブルに代えてスコア顆粒水和剤 3,000 倍(水 100ℓ 当り 33g)を使用してもよい。

◆梨の花肥施用について

1. 施肥時期: 4月中下旬
2. 施用資材・施用量: 有機専科10a 当り 2袋 (ノルチッソ1袋を施用しても良い。)
3. 留意事項: 樹齢及び花芽やせん定の状況を確認し施肥量を加減する。
降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

◆摘花の実施について(西洋ナシ・日本なし共通)

1. 摘蕾できなかつたら摘花を実施する。
2. 花そう葉のない花(無着葉花そう)、子持ち花の子花はすべて摘み取る。
3. 主枝や側枝の先端部や2年枝の腋芽花はすべて摘み取る。

◆南水の予備摘果実施について

1. 南水は満開14日後～20日後までに1果そうに1果とする。
2. 整形で果柄が長く、できるだけ大きな果実を残す。**3、4番果を残す。**
あら摘果の段階では1番果が最も大きいので、2番目に大きい果実(1番果の隣に位置する果実)を残すとおおむね3、4番果になる。摘蕾、摘花で後半の番花を整理してある場合は果柄の長い果実を残すと3、4番果になる。
なお、凍霜害の被害がある場合は5～6番果も使用して数量を確保する。
3. 必ず短果枝に着果させる。
4. 果台が横向き、または斜めの果台の果実を残す。
5. 着果させない果そう
 - ①2年枝の果そう(えき芽果)⇒条溝果、低糖度果、小玉果
 - ②無着葉果そう⇒肥大不良
 - ③果台が上向きの果そう⇒軸折れ、枝ずれ、日焼け果
 - ④果台が下向きの果そう⇒肥大不良

◆南水栽培講習会の開催について

下記により講習会を実施しますのでご参集ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
4月24日	木	午後 1:30	西澤克敏様園 (真島) 場所が不明な方は真島フルーツセンターへ 午後1時15分までに集合	外谷
		午後 3:30	高橋正治様園 (東福寺)	外谷

講師 長野農業農村支援センター飯島普及指導員

◆西洋ナシ適正摘果について

1. 予備摘果
 - ①予備摘果の時期
 - ・受精が確認される満開後10～15日頃から始め、満開後30日以内に終了する。
早いほうが果実肥大によい。
 - ・ラ・フランスが終わり次第、他の品種に取りかかる。
 - ②予備摘果の方法
 - ・2～4番果で、果柄が太くて長いものを残す⇒忙しい場合は一番大きい果実を残す。
 - ・サビ、キズ、変形果、病虫害被害果は摘果する。
 - ③摘果の位置
 - ・ラ・フランスは短果枝主体にならせ、オーロラは長果枝(20cm位)にならせる。

《オウトウ》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 落花直後 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ベルコートフロアブル	50mℓ	灰星病	7日

3. 散布量: 10a当り=10a当り400ℓ 以上
4. 留意事項
① 花卉を飛ばすように散布する。

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期: 前回散布14日後 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ベルコートフロアブル	50mℓ	灰星病	7日
Ⓜダイアジノン水和剤	100g	ケムシ類・カイガラムシ類	14日

3. 散布量: 10a当り=10a当り500ℓ 以上
4. 留意事項
① 炭疽病の発生が心配される場合は、オーソサイド水和剤 800 倍(水 100ℓ 当り 125g・収穫 3 日前まで)を特別散布する。但し、果面の汚れには十分注意する。

◆摘果について

1. 摘果の時期は、不受精果などの生理落果が終わる満開3~4週間後に実施する。
ただし、結実が良好で肥大不良が懸念される場合は、1週間程度早める。
2. 1花束状短果枝当り2~3果程度残し、日当りの良い上枝では2果程度残す。